



第7119号

2020年11月24日(火)

防災大掃除の勧め

防災システム研究所所長 山村武彦

◆家庭内感染防止に「24時間換気」

新型コロナウイルスの家庭内感染が増加傾向にある。来訪者や帰宅家族によりウイルスが持ち込まれる懸念もあり、一層家庭の感染防止策に関心が集まっている。

特に「換気の悪い密閉空間」にならないよう、適切な換気は危機管理視点からも極めて重要だ。目安は30分に1回5分程度、対角線上にある2カ所の窓やドアを同時に開ける換気が推奨されている。開口部が1カ所しかない場合はドアを開け換気扇を回す。換気扇がない部屋は開口部近くで扇風機を外に向け空気を出せば外気も入ってくる。高齢者や病人などがある家庭は、換気時に室内でもマスク、マフラー、手袋を着用してもらうなど、保温に留意した気配りが必要になる。

2003年以降に建てられた家であれば、同年7月に施行された改正建築基準法で「24時間機械換気システム」(以下「24時間換気」)が義務付けられている(改正以前でも設置済の家もある)。その換気回数は原則1時間に0.5回、つまり2時間に1回の割合。換気回数とは、一定時間内に室内の空気を外気と入れ替える回数。「24時間換気」だけで万全とは言えないが、常時換気していることでウイルス濃度を希釈する効果が期待できるという。しかし、その「24時間換気」さえ止めてしまう家庭も多い。

◆閉じてはいけない給気口

コロナ対策だけでなく、気密化が進む住宅のシックハウス症候群を予防しつつ、生活臭、結露、カビを防ぐためにも24時間換気は欠かせない。空気を排出する浴室やキッチンの換気扇・排気口だけでなく、外部から新鮮な空気を取り込むための給気口が設置されている。

ところが、「冷たい空気が入ってくる」とか「暖房効率が悪い」とか言って、冬になると24時間換気をオフにし給気口まで閉じてしまう家庭がある。

また、給気口フィルターの定期交換を怠れば通気性能が低下する。外部から空気が入ってこなければ、室内の空気を排出できない。給気口を閉じたまま換気扇を回していれば、陰圧となりドアの開閉が困難になってしまう。いずれにしても換気機器が正常に作動しているか、給気口が閉じられていないか、今こそ空気の出入りバランスをきちんと確認すべきである。

◆コロナ禍、家族総出で1年の締めくくり

効率よく換気するには空気の流れをよくすることが大切。間違っても給気口周辺や空気の通り道を妨げる場所に大型家具を置いてはいけない。また、巣ごもりや在宅勤務で身の回りにモノが増えた分ほこりも溜まってくる。その上、こんな時でも大地震が起きる可能性は否定できない。

そこで、コロナ禍に明け暮れた1年の締めくくりとして、家族総出の「防災大掃除」をお勧めする。まずは給気口やフィルターの点検、家具類の配置確認や固定、併せて避難経路の整理整頓。ついでにガラス飛散防止フィルムの貼付、防災備蓄品の期限切れ点検など。事前に家族防災会議を開き、役割分担などを十分に話し合った上で実行する。良い年を迎えるための防災大掃除は、わが家の安心・安全づくりと共に、家族の絆が一層深まること請け合いである。

(やまむら・たけひこ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003